

HQR022-07

会場:201A

時間:5月24日 15:45-16:00

埼玉県川越市で掘削した沖積層ボーリングコア GS-KSO-1 の堆積相と堆積環境 Sedimentary facies and environments of the latest Pleistocene to Holocene core (GS-KSO-1) in the Arakawa Lowland

小松原 純子^{1*}, 石原 与四郎², 木村 克己¹
Junko Komatsubara^{1*}, Yoshiro Ishihara², Katsumi Kimura¹

¹ 産業技術総合研究所 地質調査総合センター, ² 福岡大学

¹ AIST/GSJ, ² Fukuoka University

埼玉県川越市下老袋の川越運動公園で平成 22 年 11 月に掘削された沖積層ボーリングコアについて堆積相の記載と堆積環境の推定を行った。

荒川低地は武蔵野台地と大宮台地に挟まれた幅 5km 程度の沖積低地で、東京低地の支流である。関東平野の主要な河川である利根川は、江戸時代の付け替え工事で現在の河口位置になる以前は東京低地のもう一つの支流である中川低地を通して東京湾に流れ込んでいた。しかし約 4000 年前までは荒川低地の谷を流れていたといわれている(菊地 1981 アーバンクボタ 19, 平井 1983 地理評 10)。このため、荒川低地は中川低地に比べて谷埋め堆積物(沖積層)が非常に砂質であると考えられている。

GS-KSO-1 の掘削地点は荒川低地の海進の上限に近く、最終氷期以降の荒川低地の谷埋め過程を復元する上で重要なデータとなることが予想される。堆積相解析と放射性年代測定の結果、荒川低地で海岸線がもっとも内陸まで達したのは約 8000 年前であり、東京湾周辺の相対的海水準曲線のピークとは一致しないことがわかった。これは当時荒川低地に供給されていた堆積物の量が現在に比べて非常に多く、埋め立てによる海岸線の前進速度が、海水準上昇による海岸線の後退速度よりも大きかったことによると考えられる。

キーワード: 荒川低地, 沖積層, ボーリングコア, 堆積相, 縄文海進, 川越市

Keywords: Arakawa Lowland, latest Pleistocene to Holocene, boring core, sedimentary facies, Jomon Transgression, Kawagoe City